

<参考資料>

第3回審議における委員の意見

第3回審議における委員の意見

《第3回審議》令和3年1月21日

委員の意見	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、現時点で広域処理している自治体以外の都市のごみを受入処理するという計画、見通しがあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、具体的な話が進んでいるものはない。 ・現在、福岡県において広域化・集約化計画の策定が進んでいることも鑑み、必要に応じて検討してまいりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値の設定の考え方について、国の目標値を本市にも適合したトップダウン的なものか、あるいは、市の施策による削減量の積み上げによるものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の第4次循環型社会形成推進基本計画やプラスチック資源循環戦略、食品ロス削減基本方針などに示される国の目標なども目安にしながら、本市の施策による削減量を積み上げたものである。
<ul style="list-style-type: none"> ・国の目標を参考にした部分については、具体的な取り組み内容が見えにくい部分があるのではないと思うが、今後、目標の達成状況についてはPDCAサイクルを回しながら進めていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況の検証を行っていく。さらに、「食品ロスを2000年度比で半減」や「プラスチック製容器包装の分別協力率を60%に向上」といった目標設定の考え方を定めており、こういった数字をモニターしながら進めていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・広報や教育、啓発といったものが重要になってくると思うので、重点を置いてすすめていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在策定中の計画では、これまでの計画の視点に、「循環型社会形成に向けた地域全体の市民環境力の更なる発展」を新たに追加した。 ・これまで議論いただいた環境教育を含め、しっかりと市民啓発や情報発信を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの対策について、レジ袋の有料化など、いろいろと取り組んでいるが、プラスチックの減量化をもう少し取り上げた方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のプラスチック資源循環戦略の重点戦略の中でも、リデュースの取組みが示されている。使い捨てプラスチックのお断りやマイボトルの利用促進など、市民への啓発にしっかりと取り組んでまいりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・国際環境協力・ビジネスの推進について多く実施している。もっと宣伝した方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在策定中の計画において、しっかりと記載したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の事業所では、焼却工場から出る排ガスからCO₂を回収し、利用することも検討されているようである。(焼却工場でのごみ発電のほか、)直接的にCO₂を減らすという考え方を計画に入れておかないといけないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在策定中の計画において、2050年の脱炭素社会の実現を見据えた先進事例の研究についても記載したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の最終処分量の削減に関して目標値を設定しないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の産業廃棄物の最終処分量は、既に国の示す削減割合(2000年度から約77%減)を達成していることから、数値目標は設定しないこととしているが、今後も産業廃棄物の適正処理の推進を図り、最終処分量の削減を目指す。

委員の意見	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> 指定ごみ袋について、「家庭ごみ」の名称を「燃やすごみ」または「燃やすしかないごみ」に変えた方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物は、事業所から排出されるものと家庭から排出されるものの2つに大別され、本市では、このうち家庭から出るものについて、小物金属などの資源化物として回収できる不燃物を除き、燃えるごみと燃えないごみを総称して「家庭ごみ」の名称を使用している。 他都市でごみ袋の名称を変えた事例は承知しているが、ごみ袋の名称は、各都市ごとにそれぞれの事情を考慮した上で考えられたものである。
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物分野の国際協力に関し、生ごみの研修メニューが充実してくると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでも、市内企業とも連携し、マレーシアやインドネシアなどで生ごみの堆肥化に関する国際協力に取り組んでいる。 相手国の生ごみに関する要望なども聞き取りながら、技術の導入を含め、研修メニューの充実を図りたい。
<ul style="list-style-type: none"> 今後、環境ビジネスのどこにターゲットをあてて、それが循環型社会にどのように影響するのかということが分かりづらい。 ビジョンや戦略のようなものが、もう少し分かりやすいと良いかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もエコタウンを中心として、リサイクル産業の新規創出や高度化を支援することで、環境ビジネスを推進していく。 その中で、サーキュラー・エコノミー（CE）におけるリサイクル事業の位置付けや役割を明確に打ち出すことで、エコタウンのプレゼンスの向上や競争力の強化を図ってまいりたい。 ビジョンとしては、浅野会長のご意見のとおり、「地消・地循環」が、CEにおけるエコタウンの位置付けを表しており、主旨に合致する。
<ul style="list-style-type: none"> プラスチック系の材料を使わない、はじめから選定しないということが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国では、プラスチック製品の製造事業者等が努めるべき環境配慮設計に関する指針を策定し、指針に適合した製品であることを認定する仕組みを設けることとしている。 市でもそのような製品を率先して調達するほか、事業者や市民にも、それらの製品や代替素材の利用等を促進していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 食品ロスに関し、学校でも取り組んでいるが、給食や学食での取り組みで終わってしまい、家に帰ると食品ロスを出すという意見がある。 学校と家庭とを関連させた指導をすれば、子どもの時から解決の方向に結び付くのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、小学4年生対象の出張授業では、学校で学んだことを家庭に持ち帰り、家族と一緒に取り組むよう、啓発を行っている。 食品ロス削減行動が習慣化し、生活全般に浸透していくよう、引き続き様々な機会を捉えて啓発を行ってまいりたい。

委員の意見	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・次期計画の骨子（案）に記載されている、「環境教育の推進」と「普及啓発の充実」が本当に肝になる。 ・子どもたちにも分かりやすく、保護者も「なるほど」と思うような発進の仕方があると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、環境教育の重要性等を議論いただいた。 ・現在策定中の計画の中にしっかりと記載し、成長過程にあった環境教育の充実や、効果的な市民啓発・情報提供を行ってまいりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民への啓発がまだ足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価に係る市民アンケート調査によると、他の年代に比べて 20 代の若年層の関心が低い傾向にあるなど、年代により関心の度合いに差が見られた。 ・環境情報誌「ていたんプレス」や各種 SNS 媒体も活用し、ターゲット層の年代に合わせた周知手法を展開するなど、広く情報発信を行ってまいりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスプラスチックに関して、北九州市としてのビジョンや戦略として、今後どのように取り組んでいくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のプラスチック資源循環戦略においても、バイオマスプラスチックの導入量の目標が示されているところであり、コスト面や技術的な課題、国の動向にも注視しながら、バイオマスプラスチックの導入を進めていきたい。